

地域・社会への責任



方針とマネジメント	96
基本的な考え方	96
社会貢献活動の推進体制	96
社会貢献活動の全体像	96
教育に関する活動	98
社会見学の機会の提供	98
就業体験の機会の提供	98
教育現場への製品提供	98
社有林の活用	99
スポーツを通じた教育機会の提供	99
音楽を通じた教育機会の提供	99

環境に関する活動	100
生物多様性の保全	100
リサイクル活動の推進	100
地域・社会との共生などに関連する活動	101
地域美化活動	101
地域文化の保全	101
地域との共生	101
藤原科学財団への支援	101

方針とマネジメント

良き企業市民として、地域の方々に信頼され、親しまれる企業であるために、各地でさまざまな社会貢献活動を続けています

基本的な考え方

理念と基本方針を定めてグループ全体で社会貢献活動に取り組むとともに、各社・各事業所でさまざまな活動を推進しています

日本製紙グループは、再生可能な資源である「木」を利用して、紙をはじめとするさまざまな製品を供給することで、持続可能な社会の構築に貢献しています。また、グループCSR経営に力を入れるなかで、企業市民としての社会貢献活動に積極的に取り組んでいます。

全国各地でのさまざまな取り組みは、工場周辺の清掃活動やお祭りへの参加、工場見学の受け入れなど地域に根ざした各種の活動はもとより、紙のリサイクルを知ることであらためて環境について考えてもらう授業や、社有林を活用した「森と紙のなかよし学校」の実施など、グループの専門性や資源を活かした活動にも及びます。

これからも、一つひとつの活動をいっそう充実させていきながら、グループ全体で社会貢献活動をさらに推進し、社会の発展を支えていきます。

社会貢献活動の理念と基本方針 (2004年4月1日制定)

理念

私たちは社会の一員として、誇りを持って社会全体の発展に貢献する活動を行います。

基本方針

1. 文化の継承・発展に寄与する活動を行います
2. 地球環境の保護・改善に貢献する活動を行います
3. 地域社会の発展に役立つ活動を行います

社会貢献活動の推進体制

CSR本部を中心として、グループ各社に社会貢献担当者を置き継続した活動に取り組んでいます

日本製紙グループでは、2008年6月に設置したCSR本部が中心となって、グループ全体の社会貢献活動を推進しています。

グループ各社においては、社会貢献担当者をそれぞれ選任しています。各担当者は、従来の地域貢献活動を継続するとともに、それらの充実に努めています。近年では、特に、地域社会の発展に貢献していくことを目指して、学校関係の工場見学受け入れのほか、清掃活動やさまざまな地域行事への参加・協力支援などの推進に力を入れています。

具体的な活動テーマ

- グループの専門性や資源を活かした活動の推進
- グループ各社の工場および海外現地法人における地域活動の充実
- 従業員が主体となって取り組む社会貢献活動の推進
- 日本国内の社有林(約9万ヘクタール)の有効活用
- 社内外への積極的な広報活動

社会貢献活動の全体像

基本方針をふまえて多彩な活動を展開しています

日本製紙グループでは「社会貢献活動の理念と基本方針」に沿って、多彩な取り組みを推進しています。その内容は、教育に関するもの、環境に関するもの、地域・社会との共生などに関するものなど、多岐にわたります。その主なものを右表にまとめました。なお、日本製紙グループの主な社会貢献活動についてはウェブサイトでもご覧いただけます。

 社会貢献活動
<http://www.nipponpapergroup.com/csr/social.html>

日本製紙グループの主要な社会貢献活動一覧*

分野	主な取り組み	具体例	記載ページ
教育に関する活動	社会見学の機会の提供	工場見学の受け入れ	98
	就業体験の機会の提供	インターンシップの受け入れ	98
	従業員による授業の提供	出前授業、学校授業への協力	—
	国内社有林の活用	「森と紙のなかよし学校」の開催	99
	音楽を通じた教育機会の提供	札幌ポップスコンサートへの児童・生徒ご招待	99
	スポーツを通じた教育機会の提供	野球教室、野球大会の開催	—
		アイスホッケー教室、アイスホッケー大会の開催	99
		一輪車の寄贈、一輪車指導者の研修会の開催	—
教育現場の製品提供	教育機関への紙・印刷物などの提供	98	
環境に関する活動	生物多様性の保全	独自技術「容器内挿し木技術」の活用	44
		「森の町内会」活動の推進	—
		シマフクロウの保護区を設置	45
		「シラネアオイを守る会」の活動を支援	100
	リサイクル活動の推進	「リサイクルプラザ紙遊館」の運営	100
		わりばし回収リサイクル事業の実施	—
		リサイクル推進団体の支援	50
		古紙回収施設の設置	100
		牛乳パック回収リサイクル	50
	地域に緑を増やす活動	植樹活動の実施・参加	100
環境教育に関する機会の提供	各種環境イベントへの参加	42	
地域との共生に関連する活動	地域美化活動	事業所周辺の清掃活動	101
	地域の安全・防災	子どもの安全を守る取り組み	—
		交通安全への取り組み	—
		災害時の支援協定の締結	—
	地域文化の保全	文化的価値のある桜を守る運動	—
		飛鳥山薪能の運営支援・協賛	101
	地域との共生	社有林の適正な管理による森林の多面的機能の維持	—
		お祭りなど地域行事への参加・協賛	—
		所有する厚生施設(体育館など)の一般への開放	—
		所有する土地の無償貸与	—
スポーツ大会への協賛(那覇マラソンなど)		—	
イベントの開催(夏祭り・ハッピー四国など)	101		
社会との共生などに関連する活動	福祉活動	社会福祉団体のイベントへの参加・協賛	—
		社会福祉団体の製品(パンなど)を購入	—
		使用済み切手、使用済みカードなどの寄付、献血	—
	障害者スポーツの支援	アイススレッジホッケーの支援	—
	社会教育の機会の提供	CSR講演会(公開セミナー)の開催	—
	藤原科学財団への支援	藤原科学財団への財政面での支援	101
災害時の被災者支援	義援金や支援物資の提供など	—	

* 海外植林地での活動はP60～63をご参照ください

教育に関する活動

工場見学や就業体験、スポーツ・芸術に触れる機会の提供など、
子どもたちの学習や健全な成長に役立つさまざまな取り組みを展開しています

社会見学の機会の提供

紙を通じて循環型社会の大切さを
学ぶ工場見学を受け入れています

2012年度は8,894人の小学生、中学生、高校生が日本製紙グループ各社の工場を見学しました。

事例 JICAの青年研修事業に協力 (日本製紙クレシア(株))

日本製紙クレシア(株)京都工場では、JICA(独立行政法人国際協力機構)が行う青年研修プログラム「中央アジア・コーサカス地域における中小企業振興コース」の参加者の工場見学を受け入れました。

当日は、アルメニア・カザフスタン・キルギスの地域経済振興に携わる若手関係者15人が来場し、工場の概要説明の後、工場設備を見学。参加者は、生産設備のスケールの大きさに驚いた様子でした。



でき上がった製品を見学

就業体験の機会の提供

次代を担う若者たちに
さまざまな就業体験の場を提供しています

事例 インターンシップを受け入れ (日本製紙(株))

日本製紙(株)紙パック事業本部の研究部門であるリキッドパッケージングセンター(LPC)にて、苫小牧工業高等専門学校(高専)の4年生1人をインターンシップとして受け入れました。初日は生産子会社の江川紙パック(株)で紙パックの製造工程の見学、2日目以降は、LPCでCADによる試作品の設計や品質分析の実習、充填機の操作などを体験。最終日に研修内容を発表してもらい、5日間のインターンシップは無事終了しました。



生産現場を見学

事例 「キッズジョブ2012」に手すき体験ブースを出展 (日本製紙(株))

静岡県富士市にあるイベント施設「ふじさんめっせ」にて「キッズジョブ2012」が開催され、日本製紙(株)富士工場から13人が参加し、手すき体験ブースを出展しました。富士市とふじさんめっせ共催の「キッズジョブ」は子どもたちがさまざまな職業の模擬体験をしながら、働くイメージを養うイベントで、地元企業などが出展し、職業体験などができる催しです。今回のイベントは、「ものづくり体験エリア」「お仕事体験エリア」など4つのコーナーに分かれ、子どもから大人まで多数の方が来場しました。

「ものづくり体験エリア」に出展した同工場のブースは「手すき教室」を開催し、オリジナルはがきづくりを約100人の方々にチャレンジしてもらいました。参加者は自分の好きな色を選び、かわいい挿絵をすき込むなど、オリジナルはがきをつくりました。参加者は熱中して取り組み、でき上がったはがきに大満足。参加した同伴の家族からも好評をいただきました。



はがきづくりを楽しむ

教育現場への製品提供

地域の教育機関に紙や印刷物を無償提供し、
学習に役立てていただいています

事例 地元の学校へ学生新聞を提供 (日本製紙物流(株))

日本製紙物流(株)は2007年から本社近隣の学校に毎日学生新聞を無償で供与しています。2009年からは東京都北区立東十条小学校と東京都立飛鳥高校の2校に提供し、時事問題をまとめた冊子や英字新聞など、子どもや学生向けに企画された同新聞の発行物は、学習教材としても活用されています。

また、日本製紙(株)研究開発本部においても地元小学校へ朝日写真ニュース掲示板の提供を行っています。

社有林の活用

国内社有林を活用しながら
森の恩恵について伝えていきます

事例 毎年「森と紙のなかよし学校」を継続開催
(日本製紙(株)、日本製紙総合開発(株))

「森と紙のなかよし学校」は日本製紙(株)の国内社有林(約9万ヘクタール)を活用した、日本製紙グループ独自の自然環境教室です。社有林の豊かな自然に触れ、「森」と生活になくてはならない「紙」とのつながりを体験してもらう機会の提供を目的として、2006年10月に首都圏の代表的な社有林である群馬県の菅沼社有林(丸沼高原)でスタートしました。

「森と紙のなかよし学校」は、プログラム全体を従業員知識と経験を活かして企画・運営しています。グループ従業員のガイドによる森林ハイキングや、森で拾ってきた小枝を材料にした紙づくりなど、参加者が楽しめるように趣向を凝らしています。参加者は一般から公募しており、募集や当日の引率などで公益社団法人日本フィランソロピー協会の協力をいただいています。菅沼社有林では2011年春の開催こそ東日本大震災の影響で中止しましたが、スタートから毎年継続して開催してきており、2013年9月までの計15回で、一般親子、地元の高校生など計511人が参加しました。

また、2007年からは日本製紙(株)八代工場を中心に熊本県の豊野社有林で「豊野・森と紙のなかよし学校」を開始し、地域に根ざした活動としてこちらも毎年実施しています。豊野ではプログラムのひとつに工場見学を織り込むなど、プログラム構成を開催地区ごとに工夫しています。



社有林散策の様子



参加者全員で記念撮影

スポーツを通じた教育機会の提供

スポーツ教室・大会の開催などを通じて、
社会の活性化に貢献していきます

事例 日本製紙杯争奪アイスホッケー大会を開催
(日本製紙(株))

日本製紙杯争奪アイスホッケー大会(小学校第38回・中学校第35回)が2013年1月、北海道釧路市の十條アイススケートセンターにおいて開催されました。

試合に先立って行われた開会式では、釧路工場長が「怪我をしないように、日頃の練習の成果をいかに発揮してください」と選手を激励しました。熱戦が繰り広げられた末、小学校の部では鳥取西小学校が優勝。中学校の部ではベンチ入りメンバーわずか7人という少数精鋭の合同チームの釧路西部が優勝しました。



繰り広げられた熱戦

音楽を通じた教育機会の提供

コンサートへの協賛などを通じて、
良質な音楽に触れる機会を提供しています

事例 札幌ポップスコンサートへご招待
(日本製紙(株))

日本製紙(株)が特別協賛する「日本製紙 Presents 札幌ポップスコンサートVol.11」が開催され、北海道工場の各事業所(勇払・旭川・白老事業所)が所在する地元の小中学生をご招待しました。このコンサートは、映画音楽や歌謡曲・ポップスなど親しみ深い曲を演奏することでオーケストラの魅力を知ってもらおうと企画されたものです。日本製紙(株)は、北海道の文化芸術を支援する目的でこのコンサートに特別協賛をしています。力強く華やかな演奏に、招待者たちは終始オーケストラの魅力に引き込まれた様子で存分に演奏を楽しんでいました。



招待した子どもたち

環境に関する活動

生態系の保護・育成や資源リサイクル、緑化など、
地域や事業所の特性をふまえた環境保全活動に力を入れています

生物多様性の保全

グループの経営資源を活用しながら
希少種の保護・育成などに取り組んでいます

事例 「シラネアオイを守る会」の活動を支援 (日本製紙(株)、日本製紙総合開発(株))

「シラネアオイを守る会」は、群馬県のレッドデータブックの準絶滅危惧種に指定されるシラネアオイを保護するために、群馬県立尾瀬高等学校と群馬県利根郡片品村が中心となって、2000年12月に発足しました。

日本製紙グループでは、同会の設立当初から、地元で丸沼高原を運営する日本製紙総合開発(株)が運営面で支援し、シラネアオイの群生復元のために日本製紙(株)の菅沼社有林の一部を開放しています。2002年からはグループ従業員にボランティアを公募し、植栽などの作業活動に参加しています。



丁寧に苗を植え付け

事例 「日本製紙グループ 植樹2013」を開催 (日本製紙(株))

日本製紙(株)は、豊かな森林を未来に残していくための取り組みとして群馬県利根郡片品村にある丸沼高原で「日本製紙グループ 植樹2013」を開催しました。東京地区を中心に参加者を募り、日本製紙グループ内外合わせて約200人が参加しました。

参加者たちはスタッフの指導のもと移植ごてを使って次々と手際良く苗木を植え、用意した5種類、2,000本の苗木を40分ほどで全て植えました。今後も、豊かな森林を未来に残していく取り組みの一環として、植樹を継続して開催していく予定です。



斜面に1本ずつ苗木を植樹

リサイクル活動の推進

リサイクルとその啓発活動を続けています

事例 「リサイクルプラザ紙遊館」の運営 (日本製紙(株))

日本製紙(株)北海道工場旭川事業所に隣接する「リサイクルプラザ紙遊館」は、1999年10月20日(リサイクルの日)、紙の再利用の現状と必要性を広めることを目的に、旧診療所を再利用しオープンしました。

常時、手すきができる体験型の施設として家族連れや小中高等学校・各種団体など、旭川市内だけでなく道内外および海外からも来館者を迎えています。また、施設の一部を無償で開放し、写真展や書道展などの地元行事の開催にも協力しています。



リサイクルプラザ紙遊館外観

事例 古紙リサイクル活動の推進 (日本製紙(株)、北上製紙(株))

日本製紙(株)板紙事業本部吉永工場では、都市型資源リサイクル工場を目指し「省資源の推進」のひとつとして、工場構外2カ所に大型の古紙リサイクルステーションを設置しています。古紙は決められた日時・場所に出さなくてはなりません、24時間の持ち込みを可能とすることで、住民からは「都合の良い時間に出せるので、ストックした古紙が邪魔で困ることがなくなった」と好評です。今後も、周辺地域へさらなる協力を呼びかけ、「24時間の古紙回収」計画を推進していきます。

また、北上製紙(株)では一関市周辺の小・中規模事業者や住民を対象に、自由に古紙を持ち込めるように工場内に古紙置場「紙源のカゴ」を設置し、段ボールや古雑誌などを受け入れています。なお、その収益金は、一関市の歳末助け合い募金として地域に還元しています。



北上製紙(株)の紙源のカゴ

地域・社会との共生などに関連する活動

事業所を置く各地域で、自治体や地域の方々とともに
清潔・安全で暮らしやすい町づくりや、地域の活性化を図る取り組みを継続しています

地域美化活動

きれいな町の維持に取り組んでいます

事例 事業所周辺の美化・清掃活動を実施 (日本製紙(株))

日本製紙(株)ケミカル事業本部東松山事業所は、環境保全並びに地域貢献活動の一環として、6月5日の環境デーに合わせて事業所周辺の美化・清掃活動を実施しました。

当日は、協力会社を含めて総勢80人が参加し、事業所周辺の美化・清掃活動を行いました。以前は廃タイヤや大型家庭ゴミの不法投棄があり、軽トラック一台分ほどのゴミが集まっていた。しかし、現在は、美化・清掃活動を年2回行っている成果も現れ、不法投棄はほとんどなくなりました。今後も今の状態が維持できるよう従業員一丸となって、地域の環境保全活動に取り組んでいきます。



事業所周辺で清掃活動

地域文化の保全

伝統文化に触れる機会づくりを支援しています

事例 飛鳥山薪能の運営の支援・協賛 (日本製紙総合開発(株))

飛鳥山薪能は、東京都北区で生まれ育った能楽師の故木村薫哉氏が、能楽を通して地元へ恩返しをしたいと考え構想した催しです。毎年秋に、同区の飛鳥山公園内にある野外の舞台で能が演じられ、日本製紙総合開発(株)は、6年前から地元企業としてこの催しに協賛するとともに受付などにも協力して運営を支援しています。

2012年10月に開催された「第10回飛鳥山薪能」では、人間国宝の野村万作氏による狂言「墨塗」と、観世流の能楽師山階彌右衛門氏、観世芳伸氏による能「石橋」が演題となりました。



野外舞台での能演舞

地域との共生

双方向のCSR活動を導入するなど
地域の方々との交流を深めています

事例 「ハッピー四国」プロジェクトを開始 (四国コカ・コーラボトリング(株))

四国コカ・コーラボトリング(株)は双方向のCSR活動を目指し、「ハッピー四国」プロジェクトを開始しました。四国をハッピーにするためのアイデアをウェブサイトなどを通じて募り、売上金の一部を活用して実施するプロジェクトです。

2013年3月には、愛媛県松山市で開催された「Happy Dance Contest 2013」を応援しました。このイベントは「ダンスで愛媛を盛り上げる」ことを目的としており、子どもたちが華麗なダンスを繰り広げました。また、同年5月に香川県の高松市スポーツ少年団創設50周年事業と合同で「縁の下の力持ち大会」の開会式を実施しました。少年団員が会場準備などを行い、縁の下の力持ちである保護者や指導者の皆さんがミニテニスなどの競技に挑み、順位に応じてトレーニング器具や救急箱が贈られます。



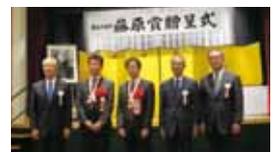
華麗なダンス発表

藤原科学財団への支援

科学技術の振興を支援しています

公益財団法人藤原科学財団の「藤原賞」は、日本のノーベル賞ともいわれ、科学技術の発展に卓越した貢献をした日本の科学者を顕彰する学術賞です。創設者の藤原銀次郎翁が日本の科学技術の振興に貢献してきた精神を受け継ぎ、日本製紙(株)は財政的な支援を続けています。

2013年6月に表彰式が行われた「第54回藤原賞」では、東京大学大学院工学系研究科教授の香取秀俊工学博士および独立行政法人理化学研究所・脳科学総合研究センター副センター長の宮脇敦史医学博士に、賞状と金メダル、副賞の1,000万円がそれぞれ贈られました。



贈呈式後に記念撮影